

第3回（2月） 会議録（主な意見）

○ESD やSDGs について、その理念は大切であるが、地域の皆さんが学びの場に参加することが大切であり結果的に学びや活動がSDGs に貢献しているということになればよい。ただ、活動を広めていく時には活動する意識付け、意味づけする時には理念は必要である。

○地域の活動に中学生を巻き込むことは大変有意義なことである。イベントに参加・参画した中学生の多くは、地域との接点があったことや地域の大人と話があったことや「ありがとう」と言われてやりがいにつながっていた。

○地域活動の中で現役世代の姿が見えないのは課題であり、活動日を土曜日にするなど参加しやすい環境づくりも大切である。様々な世代が参加することで横のつながりができてきた。

○PTA の世代は人材育成にはよいタイミングである。しかし、諸団体や企業の枠にとらわれず、社会全体のあらゆる場面で人材育成していく素地が、日頃から地域にあることが大ではないか。

○課題解決に向けて明確なプロセスは分からないが、一足飛びで解決できる問題は無く、挨拶や会話を通して地道な活動や努力していく必要があるのではないか。

○子育てやPTA 活動、地域学校共同活動にかかわる大人が増えてくるような雰囲気づくりが必要ではないか。そのことが大人づくり、更には地域づくりにつながるのではないか。

○地域では、「健康」「長寿」等、関心の高いテーマを設定して、公民館の講座への参加を通して地域にかかわっている。また、加賀野菜を使った料理教室を通して、子どもたちへ伝統文化の継承を図るとともに子どもたちとのかかわりを大切にしている。

○子どもたちに、登校時「おはよう」下校時「おかえり」と声かけや挨拶する活動を行っている。自宅前で無理をせずに、長く続けられる取組によるつながりづくりは大切である。

○PTA(育友会)・公民館・子ども会など、団体が定期的に会合をして、「人づくり」「つながりづくり」にどのようにかかわっていくかを共通理解していくことになった。

○公民館職員は地域から信頼されるためにもスキルアップしていく必要がある。その中でも特に社会教育士の資格取得を目指していく必要がある。

